

## 新たな目黒区民センター等整備事業シンポジウム～めぐろかがやきプロジェクト～

### 登壇者紹介

- **東京大学教授 出口 敦 先生（ファシリテーター） 【都市計画・まちづくり】**

公・民・学連携の都市デザインとエリアマネジメントについての研究と実践を通じて、地域の課題解決に尽力。柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）の取組みで日本都市計画学会石川賞受賞。

〈出口先生コメント〉

東京大学のキャンパスがある千葉県柏市において、『産官学連携』ではなく『公・民・学連携』と呼んでいる UDCK といった組織や仕組みをつくり、住民も一緒になってまちづくりに取り組んでいます。

まちづくりでは、住み続ける人がいるという点を考慮して、短期的な採算性等ではなく長期的な視点が重要となります。

- **東京藝術大学准教授 藤村 龍至 先生 【建築・景観】**

街路沿道や河川、公園緑地の利活用、駅周辺再整備のデザインコーディネートなど建築の視点を活かした都市・まちづくり関連のプロジェクトに幅広く関わる。当区の区有施設見直し有識者会議委員（平成 24・25 年度）。

〈藤村先生コメント〉

平成 24・25 年度に目黒区区有施設見直し委員を務め、その後他の自治体においても公共施設見直し委員会に参加し、現在は世田谷区庁舎の設計提案に携わっています。

目黒区の特徴として、5つの地区に22の住区を設定し、住区中心のまちづくりを進めている点があります。住区ごとに公共施設があり、区全体としても施設を多く抱えている印象を受けました。

今回の事業では、これまで施設で育まれてきた区民活動を活かしながら、長期的な視点で施設を維持管理していくという点について、建築の視点から提案できればと思いオファーを受けました。

- **東京藝術大学准教授 宮本 武典 先生 【文化芸術】**

専門はキュレーション。「山形ビエンナーレ」や「角川武蔵野ミュージアム」など、数多くのアートの場づくりや産学連携プロジェクトでマネジメントを手がける。令和 5 年 5 月より「アーツ前橋」のチーフキュレーターに着任。

〈宮本先生コメント〉

品川区の美術館勤務を経て、震災前後に東根市の美術館に勤務後、所沢市のミュージアムの新規立ち上げに参画しました。

東日本大震災をきっかけに、アートが社会に対してどのように機能しうるか、インフラのみならず活動面からも考えていく必要があると考え、美術館だけでなく周辺建物におけるプロジェクトにも携わっています。

大きな社会変動の中でも、特に公立美術館は変わってはならないものを残していくべきと考えて

います。学生時代に目黒区美術館の市民ギャラリーで展示をしたり、大学院生時代に目黒区内の稽古場に通うなどしていました。

● **千葉工業大学教授 倉斗 綾子 先生 【学校と公共施設の連携、地域活用】**

学校をはじめとするこどものための環境や地域コミュニティの研究を行っている。公共施設の再編において施設機能・空間デザインのアドバイザーを歴任。令和2年度より当区の区有施設整備アドバイザーに着任。

〈倉斗先生コメント〉

大学時代の最初の設計課題が美術館で、先行事例として目黒区美術館を訪れたことがあります。

学生時代には学校施設を「作る」ことを学びましたが、社会人になってからは『幸せに減らす減らし方を一緒に考える』テーマで研究してきました。『減らす』ということにはマイナスイメージが伴いますが、これからの時代にとって良い、コンパクトな施設をどう作るか？というテーマが本事業にも当てはまると考えます。

この事業の話が来た時は、この豊かな場所で未来の子どもたちのための施設を作る取り組みであると感じました。違った名称の別々の施設が大きな一つの施設になり、どのような愛着が生まれる施設になるのか、わくわくした気持ちで参加することにしました。目黒という地域で、子どもたちが愛着をもってくれる場所にするにはどうしたらいいか、という視点で関わりたいです。

● **一般社団法人公園財団常務理事 町田 誠 様 【公園】**

東京都公園緑地部長、国土交通省公園緑地・景観課長を務め、平成30年に国土交通省PPPサポーターに任命。地方自治体におけるPark-PFI等公民連携事業の導入やプラットフォーム整備に尽力。

〈町田さまコメント〉

国土交通省で40年ほど公園行政に携わり、5年前に退職しました。その後3年間ほど『地域のためにどのような公園が望ましいか』という観点から、公園の積極的な活用について普及啓発活動を行ってきました。

現在公園を作るロジックは充実していますが、作った公園をどのように使うかというノウハウがまだ未熟であるように感じており、進化させていきたいと考えています。

(公園の活用事例やPark-PFIにより整備された公園について、スクリーンに写真を投影しながら) 制約的・制限的にとらえるのではなく、どうすれば区民のための空間になるかという観点で公園の検討をしていきたいと考えています。

※ 【】内には先生方の専門分野を記載しています。